

アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会報告書（素案）骨子

1 今に至る歴史的経緯

- (1) アイヌの人々につながる歴史や文化（古代以前～中世）
- (2) 「異文化びと」と「和人」の接触～交易（中世）
- (3) 過酷な労働生産の場（近世）
 - ・ 商場知行制や場所請負制、「和人」との抗争
 - ・ ロシアの南下政策と国境画定
- (4) アイヌの文化への深刻な打撃（近代）
 - ・ 場所請負制の廃止と自由競争
 - ・ 文明開化とアイヌの文化への打撃
 - ・ 近代土地所有制度の導入
 - ・ 伝統的生業（狩猟、漁撈）の制限
 - ・ 北海道旧土人保護法の制定
 - ・ 民族意識の高揚 など
- (5) まとめ（国による政策とその影響）

2 アイヌの人々の現状とアイヌの人々をめぐる最近の動き

- (1) アイヌの人々の現状
 - 生活や教育の状況、文化活動の取組み、帰属意識 など
- (2) アイヌの人々をめぐる最近の動き
 - 国際連合宣言 (H19. 9)、国会決議 (H20. 6)、官房長官所信 (H20. 6)

3 今後のアイヌ政策のあり方

- (1) 今後のアイヌ政策の基本的考え方
 - ① 先住民族という認識に基づく政策展開
 - ② 国連宣言の意義等
 - ③ 政策展開に当たっての基本的な理念
 - ア アイヌのアイデンティティの尊重
 - イ 多様な文化と民族の共生の尊重
 - ウ 国が主体となった政策の全国的实施
- (2) 具体的政策
 - ① 国民の理解の促進
 - ア 教育
 - イ 啓発
 - ② 広義の文化に係る政策
 - ア 象徴施設の整備
 - イ 研究の推進
 - ウ アイヌ語をはじめとするアイヌ文化の振興
 - エ 土地・資源の利活用の促進
 - オ 産業振興
 - カ 生活向上関連施策
 - ③ 推進体制等の整備